

活動報告(4~8月)

4月	14日	高齢者施設・裁縫の会 (利用者9名、ボランティア6名)
	16日	高齢者施設・アロマボランティア (利用者9名、ボランティア2名)
	18日	タオル帽子講習会 in 船橋 (参加者7名、会員2名)
	28日	<b>ケアグッズの会 in 船橋 (参加者7名)</b>
5月	19日	高齢者施設・裁縫の会 (利用者10名、ボランティア5名)
	"	高齢者施設・アロマボランティア (利用者10名、ボランティア2名)
	26日	ケアグッズの会 in 子ども病院 (参加7名、うちピア2名)
6月	12日	アロマチームフォローアップ研修 (参加7名)
	16日	高齢者施設・裁縫の会 (利用者9名、ボランティア4名)
	18日	高齢者施設・アロマボランティア (利用者11名、職員2名、ボランティア2名)
	21日	タオル帽子講習会 in 花園公民館 (参加者17名、会員5名)
	30日	<b>ケアグッズの会 in 船橋 (参加者6名)</b>
7月	10日	チャリティイベント・藍染講習会 (参加者13名、スタッフ3名)
	14日	高齢者施設・裁縫の会 (利用者8名、ボランティア6名)
	21日	高齢者施設・アロマボランティア (利用者9名、ボランティア2名)
	28日	ケアグッズの会 in 子ども病院 (参加4名)
	31日	金平糖カフェ~看護学生のためのミニ講習会 (参加看護学生19名)
8月	5日	<b>千葉県がんセンター夏祭り (参加9名)</b>
	23日	<b>子ども病院外来ワクワク広場 (参加28名)</b>

☆ケアグッズの会 in 船橋

定期開催が始まりました。

日時

偶数月の最終木曜日(8、12月は、休み)

今後の予定:10月27日、2月23日

午前10時~午後3時

場所

千葉保育センター

船橋市本町3丁目4-3

(JR船橋駅徒歩10分、中央図書館近く)



※予定は、変更になることがあります。事前に、事務局にお問い合わせ下さい。

☆夏休み・病院ボランティア

千葉県がんセンター 夏祭り

・アロマハンドトリートメント

24名が体験されました。

(患者さん、ご家族、病院関係者)

・ケアグッズ

タオル帽子(128枚)

アイスノンカバー(35枚)

小袋やキャップ帽子、ゴムプレス等



タオルで作ったケアグッズは、好みの色や柄をご家族と一緒に選ぶ姿が見受けられました。

「明るい色やきれいな柄がいいわね」との声も聞くことができました。参加ボランティア:10名(内、学生3名)

子ども病院夏休み外来ワクワク広場

夏休みの外来に、突如あらわれた一日限りのワクワク広場。みなさんの声をご紹介します。



・お姉ちゃん(患児のきょうだい)を留守番させているというお母さん・・・  
「一緒にくればよかったね」

・折り紙コーナーを見ていた看護師の方・・・「お家の居間が、そのまま飛び出てきたみたいですね。見ていて、ほっこりしますね」

参加ボランティア:28名(内、学生19名)

## テーマ特集・まずは「知ること」

「井の中の蛙、大海を知らず」言わずと知れた荘子の言葉。この続きがあるのをご存知ですか。それは、「けれど、空の青さを知る」。日本で付け加えられたとのことで、その解釈も諸説ありますが、空の青さを知るために井の中の蛙は、何をしたんだろう。虫や鳥から大海のことを聞いたのだろうか・・・と想像すると、知ること広がる可能性がみえてきませんか？



### 金平糖と看護学生コラボ企画から 『看護とウェルビーイング(※1)』

7月31日、看護学生のゼミナールと金平糖のコラボで『地域ケアパートナー「ほっと」代表・藤井さんのお話を聞く会』を開催しました。参加者は看護専門学校、大学の学生、金平糖スタッフを合わせ21名。終了直後、ある学生さんが「学校の90分授業がこんな風にあっという間に過ぎることってめったにない〜」とぼろっと発言。それだけ藤井さんのお話が心に響いたのでしょう。



「ほっと」さんは「ケアする方が元気でケアできるように」「ご高齢の方・おひとり暮らしの方、障がいをお持ちの方が安心して過ごせるように」という願いの下、「笑顔で暮らせる街づくり」を目指し活動している団体です。具体的な活動内容は、お話し相手とフットケアやハンドケア、見守りや留守番など“制度外の在宅支援”。中でも病院に同行する「受診サポーター(※2)」の取り組みは、千葉市のモデル事業になりました。

今回の講座では、「受診サポーター」の活動を中心にお話しいただいたのですが、どの活動においても、常に“当事者目線”“市井の人の感覚”を持ち続けていることに深く感銘を受けました。また、藤井さんは看護師ですが、専門職が陥りやすい“啓蒙したろー”的な上から目線はゼロ。暮らしの中から発せられる「困った」にしっかり耳を傾け、共にあろうとしています。この姿勢は参加した学生たちの心にもしっかり届いたようです。



※1 WHO 憲章の中で使われ、現代の社会福祉の目的ともなる概念。「自己実現を目指して個人がよりよく生きること」

※2 地域ケアパートナー ほっと「受診サポーター」は、医療・介護・高齢福祉・障害福祉・地域包括をつなぎ、患者さんと病院と在宅を支援する役割を担います。

### ☆学生の感想(原文ママ)

#### (1)「受診サポート」に関連して

- ・看護師が患者さんの話をじっくり傾聴すべきであるのにできない現実があり、だからこのような活動が必要になっていくのだとわかりました。
- ・もしかすると(病院の)看護師よりも「ほっと」のような団体が行うことで看護師以上に患者さんのことが見えてくるのかもれません。もし、そうなのであれば患者さんの治療をより良くするためには必要な存在なのだと考えました。
- ・ケアマネやヘルパーでは補えない隙間や外来受診においても看護師ではカバーしきれないところが多々あるというのはわかっていましたが、しょうがないことなのかなと思っていました。そこでほっとさんのような在宅と病院を繋ぐ中間地点の役割をする活動があることを知り画期的だと思い、こういう活動に関心が集まり増えていけば患者さんとしても看護師や他職種の方々としても助かるなどと思いました。

#### (2)その他

- ・私達は患者さんを退院させることがゴールになりがちですが、本当の意味で患者さんを支えるためには患者さんの退院後の生活までに目を向けていかなくてはならないと思いました。
- ・藤井さんの活動の熱い思いにただただ感動して涙が出そうになりました。

講習会が終わってから二人の学生さんに「自分たちの学校にはこういうことを学べるゼミがないんです。もし、自分たちで作ったら、金平糖さんは来てくれますか？」と、声をかけられました。その時、「地域教育支援活動」をはじめなきゃ！と、お尻に着火。この活動では、学生さんたちが学校の授業の枠を超え、当事者の声を聞いたり、地域の社会資源に触れる機会を作りたいと思います。そして参加した学生さんたちが、「実習で患者さんと向き合う時、ちょこっと、引き出し増やして頑張れるといいな」「ナースとして立ち立つ時、仕事のヒントになるといいな」そんなことを願っています。

藤井さん、熱い思いが学生の背中を押しました。ありがとうございます。

学生の皆さん、ヒントと勇気をくださってありがとうございます。

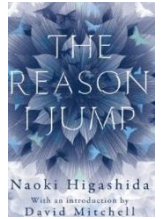
今回のコラボ企画を通して、「知る機会」の大切さ、「出会うこと」の大切さを実感させられ、続行案としての「地域教育支援活動」企画。今、練り始めています。(佐藤)



### 東田直樹「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」(角川文庫)



本書は2007年、著者が13歳の時に書いたエッセイ。これが作家デヴィット・ミッチェル氏の目に留まり、2013年7月イギリスで英訳版『THE REASON I JUMP』が出版され、今では世界的ベストセラーになっています。(2016年現在、30言語で翻訳)



ミッチェル氏の息子も東田さんと同じくらいの症状を持つ自閉症児。エッセイを読んだ時、「直樹の言葉をつづいて、まるでうちの息子が自分の頭の中で起きていることについて、初めて私たちに語ってくれたかのように感じられた」といいます。確かにこの本では、自閉症の人の親やその周辺にいる人たちが、今まで最も知りたかったこと、例えば、どうして飛び跳ねるのか、どうして何十分も泣き叫ぶのか etc...と苦悩してきた点について、当事者である東田さんが、彼自身の言葉で具体的に語っています。これは研究論文や親の子育て記録、いわゆる「自伝的」な本からは得られなかったものだったとか。

実は私、娘の強烈な勧めで購入したのですが、読むまでは「ま、カンドーの多い若者の言うことだから知っているだろう」と高をくってました。それどころが大変失礼なことに、どうせ親が本人に代わって書いているか、軽度の人サクセスストーリー的な自伝だろう、とまで思っていたのです。が、1ページ読んだだけで、東田さんごめんなさい！娘よ謝る！と前言撤回。

読んで湧き上がってきたのは、驚き、感動、切なさなど様々な感情。中でも、ぎゅっと心を支配したのは、「知らなかったこと」への申し訳なさでした。彼は会話ができません。けれども文字盤を使ってコミュニケーションし、パソコンで文字を書くことができます。が、これほど豊かに心情を表現する力があると思っていなかった私。

この本には、彼からの静かで力強いメッセージが込められていました。“僕は決して自分を閉じた人ではないですよ”あなたたちが勝手に“閉じている人”と決めつけて来たのではないですか？と。

そう。私たちの中には、油断すると偏見、差別、排除と簡単に手を組んでしまう残酷さがあります。声を発せられない人を閉じ込めてしまわないように、「耳を傾け」「知ること」から始めたい、改めて気づかされた一冊です。(佐藤)



巻にあふれる健康情報。鵜呑みにしていませんか？こんな情報は“ガセネタデスシ”ご用心。  
(岡山済生会病院・がん化学療法センターの川井医師のフェイスブックから、抜粋)

**ガ**:学会で、とかいていたら怪しい/**セ**:セイブンを強調していたら怪しい/**ネ**:ネズミ(動物)の実験だったら怪しい/**タ**:体験談は意味なし/**デ**:デイ単位の話なら意味なし(デイ単位=日の単位、での変化、つまり短期間での変化)/**ス**:少ない例数の話は怪しい/**シ**:試験管の中(実験的)な話は怪しい

そして、これまた巻にふれる健康食品。内閣府・食品安全委員会は、2015年12月8日「健康食品」に関するメッセージを公表しました。メッセージの一部を抜粋します。

「健康食品」については、多くの人での何年にも及ぶ長期間の科学的研究が少なく、安全性や有効性が確立しているとはいえません。

## イベントのお知らせ

### ☆タオル帽子講習会 in 習志野



日時 10月11日(火)

9時30分～12時

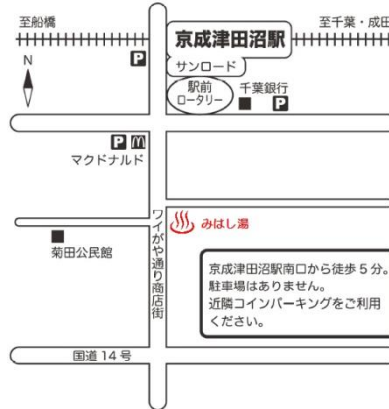
場所 みはし湯ホール

習志野市津田沼5丁目9-12

参加費 1000円(型紙代含む)

持ち物 タオル・裁縫道具

(針・糸・はさみ・チャコペンシル)



元銭湯を利用したスペース

昭和が香るステキ空間

### ☆クリスマス・チャリティイベント

毎年恒例、ケアグッズの材料費のためクリスマスイベント。  
(参加費のうち、500円は、ケアグッズ材料費のためのご寄付です)

11月26日(土) クリスマスカード作り

(参加費は、2000～3000円を予定。場所等詳細は未定)



そして、金平糖のクリスマスといえば

「ポマンダー」!

ポマンダー作りも同時開催

(クリスマスカード作りのみ

ポマンダーのみ、の参加もできます)



2020年真夏の五輪でも心配される熱中症。残暑厳しき折り、お気を付けてください。  
(松尾)

## ボランティア募集

### ☆高齢者施設での「縫い物の会」ボランティア

(有償: 交通費補助、1回500円)

千葉市花見川区天戸町の施設です。

資格等: タオル帽子講習会に参加された方

### ☆ケアグッズ作りの会

i n 船橋 (参加費 300円…会場費等)

一面でも紹介しましたが、今年度から定例開催しています。詳細は、1面をご覧ください。

i n 子ども病院 (参加費 無料)

奇数月、第四木曜、午前9時～12時

千葉県子ども病院会議室にて開催しています。

お問い合わせ・お申込みは、事務局(松尾)まで

Tel 047-493-7812

Mail m-sumire@knd.biglobe.ne.jp

※事務局からお願い

2016年度ニュース会費(300円)がまだの方は、下記口座へお振込みください。

ゆうちょ銀行(記号)10510(番号)31152501

(切手で納入の場合は、82円×4枚お願いします。)

ニュース不要の方は、その旨ご連絡いただくと助かります<(\_)\_>